

新生児センターご案内



桐生地域医療組合
桐生厚生総合病院



私たちは桐生厚生総合病院 新生児センターです



当センターの特色

- ・ 地域周産期母子医療センターとして、東毛地域の新生児医療の中核を担います。
- ・ 集中治療を行うNICU 12床、退院前の医療を行うGCU 15床からなります。
- ・ 夜間休日でも小児科医が常に当直し、独立した看護体制を持ち、24時間体制の集中治療に対応します。
- ・ 一酸化窒素吸入療法、高頻度振動換気法等の高度新生児医療に対応いたします。
- ・ 外科手術が必要な場合は、当院で診断後に県立小児医療センター等に責任を持って搬送し、適切な治療が受けられるよう連携します。
- ・ 産科部門と協力し、母体・胎児の疾患がある場合には、母体搬送（妊婦さんに転院いただき、当院で出産）をお受けしています。
- ・ 桐生市の分娩施設で病気の赤ちゃんが生まれた場合は、桐生市消防署の救急車で搬送に出動します。



豊かな専門性と実績

実績

- ・ 年間の入院は約200名、1500g未満の極低出生体重児が20～30名、人工呼吸管理が30名～40名です。
- ・ 最近10年の極低出生体重児、超低出生体重児の生存率はそれぞれ96%、91%でした。
- ・ 日本周産期新生児医学会 周産期専門医（新生児）指定研修施設に認定され、新生児医療の専門研修に対応しています。
- ・ 新生児蘇生法講習会を定期的に開催し、院外からの受講者も受け入れています。

-最近10年間（2006～2015年）の極低出生体重児の治療実績-

在胎週数	入院数	生存退院数	生存率 (%)
24週	19	16	84
25週	19	18	95
26週	27	24	89
27週	44	44	100
28週	34	34	100
29週以上	157	156	99
合計	300	292	97

出生体重	入院数	生存数	生存率 (%)
500g未満	6	4	67
500～599g	16	13	81
600～699g	19	17	89
700～799g	25	24	96
800～899g	27	25	93
900～999g	35	33	94
1000g以上	180	179	99
合計	308	295	96





院内各部門との協力体制

産科部門のご紹介



- ・年間500例を越える分娩を24時間体制で取り扱っています。新生児センターのもと、切迫早産をはじめとする周産期合併症をもった妊婦さんを救急車で運んでもらう（母体搬送）機能を持ち、年間約60件に達しています。このため当院は東毛における周産期医療の大きな拠点の1つに認定されています。（地域周産期母子医療センター）



産科医師のメンバーです。
女性医師が多く、お気軽に相談
できる診療を心がけております。

- ・ 専 門
日本周産期新生児学会 周産期専門医指定研修施設に認定されており、周産期専門医を目指す熱心な医師が在籍しています。



産科部門と密接に協力しています

産科部門との連携

・連携

新生児センター小児科と産科医は週1回欠かさず周産期カンファレンス
(=医師による小会議)を実施して密な連携に努めております。

・助産師

産科部門スタッフには総勢20名に及ぶ助産師が交代勤務で24時間対応します。



暗号キー付きドアで守られた産科病棟



綿密なカンファレンス



・母児同室

原則母児同室です。もちろん、一時的なお預かりも含めていつでも助産師にご相談できる環境です。

元気な赤ちゃんのもとにも、新生児センターから医師が回診に参ります。

妊娠分娩はたいへんなことですが、ご本人、ご家族、医療従事者が協力して1つ1つ問題を解決し、元気な笑顔でお帰りになっていただくことが私たち産科スタッフの喜びです。

小さな「いのち」を守り、育てる

様々な職種が赤ちゃんのご家族の育ちを支えます

赤ちゃんをご家族を支えられるよう、専門性豊かな多くの職種で協力して医療にあたっています。

医師

チームのリーダー。赤ちゃんの全身状態を管理し、各スタッフへ指示を出します。治療方針等について検討・ご説明いたします。

小児科専門医、新生児専門医、小児循環器専門医、新生児蘇生法インストラクター

看護師

助産師

24時間赤ちゃんに寄り添い、心と体の成長・発達を見据えた看護を行います。お母さんの体調を考慮しながら、ご両親が赤ちゃんのケアに参加できるよう援助いたします。

新生児集中ケア認定看護師、新生児蘇生法インストラクター、ベビーマッサージのインストラクター

臨床工学技士

医療機器の専門家として、多職種と連携し、安心・安全な医療機器を赤ちゃんに提供しています。

臨床心理士

赤ちゃんのお母さんをはじめ、ご家族の心の健康をサポートいたします。

理学療法士

作業療法士

言語聴覚士

赤ちゃんの発達機能を把握し、ご家族とともに成長に合わせた機能の獲得を目指し、医師の指示のもと発達の支援を行います。

医療相談員

社会福祉の立場から赤ちゃんの入院中や退院後の生活の様々な支援を行っています。

新しいのちを受け止め、守ります



NICU内は広々とし、交差感染を起こしにくく、必要に応じてスクリーンを下ろすことでプライバシーも守られやすくなっています。

NICUはゆとりをもってベッドを配置しており、ベッドサイドでカンガルーケアが行いやすくなっています。また、照度を下げ、アート壁を配し、未熟児の赤ちゃんのご家族が落ち着ける環境を作っています。

ディベロップメンタルケアに配慮した環境整備や看護を行っています。

室内環境調整

子宮内にいるときのように、昼間でも明るさを落としています。

保育器内やベッドでの姿勢の調整

子宮内でのように手足を曲げて丸まった、落ち着ける姿勢を心がけています。

治療環境の整備

新生児集中ケア認定看護師が勤務し、専門性の高いケアを行っています。
赤ちゃんと離れざるを得ないご家族に赤ちゃんとのつながりを強めることができるよう支援しています。

母乳育児の推進や助産師による乳房ケア、面会ノートのやりとり
祖父母の面会、臨床心理士が週2回勤務し、ご家族のお話を伺っています。



NICUでのカンガルーケアは、スクリーンを下げて、他の方の目を気にせず、落ち着いて行えます。

退院後に向け支援も充実しています

退院前にはファミリールームを使って、お泊りや長時間の育児練習ができます。
ご家庭で安心して育児ができるように、地域のかかりつけ医や保健師などへ情報を提供し、連携して支援を行います。



付いている機器の数もぐっと減り、育児練習もしやすくなります。



退院前に24時間赤ちゃんとお過ごし練習ができます。



ご両親揃ってゆったりとお風呂の練習ができます。



痛みが少なく搾乳できる電動式搾乳器を備えています。

退院までのあゆみ



保育器の中で丸まった姿勢の赤ちゃん。

リラックスしてよく寝ています。

鼻に呼吸を補助する装置を付けています。

最初は保育器に入り、色々なチューブが必要です。

日中でもこれくらい明るさを減らしています。



パパとカンガルーケア中の赤ちゃん。

カンガルーケアは32週になり、体調が落ち着いていると行います。

34週になると口から飲む練習をします。



お風呂練習中の赤ちゃん。

GCUからの退院は、出産予定日頃が目安です。



退院後もご家族をしっかり見守ります

退院後は専門のフォローアップ外来（発達外来）にて経過を拝見し、必要に応じて、リハビリ施設や教育機関と連携しています。極低出生体重児は小学校就学までは経過を拝見します。

また、赤ちゃんのことで心配事があれば、24時間いつでもGCUに電話で相談いただけます。必要に応じて、医師のアドバイスも受けられます。

退院に際してのご不安が強いご家族には、発達外来の際にGCU看護師が外来に訪問し、お話しを伺うことがあります。



発達外来で発育や発達の様子を拝見します。

「おにいちゃんもNICU卒業生です」



外来でのGCU看護師との再会

「こんなに大きくなりました」



「育児を支える」を大切にしています

極低出生体重児、32週未満のお子さんをお持ちのご家族が集まる会（クラブプリミー）を年2回開催しています。

お子さんは職員とボランティアでお預かりし、ご家族には安心してお話いただけます。

同じような経験をしたご家族と入院中の気持ちや悩み事などを率直に話すことは、日々の育児に前向きに取り組む元気を与えてくれると思います。



クラブプリミーでの、託児風景



フリートーク



集合写真





医師のご紹介

小児科



産婦人科





入院のご依頼・面会時間等

入院のご依頼について

母体搬送は産婦人科へ、新生児搬送はNICUへそれぞれご連絡ください。

TEL:0277-44-7171 (代) →電話交換手へ産婦人科またはNICUをお伝えください。

- ・新生児搬送の際には、群馬県が配付する「新生児搬送の手引」をご参考いただき、必要な情報をお伝えいただくと助かります。
- ・氏名、生年月日、出生時刻、性別、症状、緊急連絡先と分かる範囲でバイタルサイン（心拍数、呼吸数、体温、SpO₂、血糖値、呼吸管理内容など）をご連絡ください。
- ・新生児搬送の場合、入院後、必要な検査や治療を行い、ご家族に病状を説明するまでに2～3時間程度かかることがほとんどです。ご家族には救急車に同乗いただくのではなく、救急車の出発後3時間を目安に病院においでくださるようお願いください。また、入院時の病状説明は原則としてご両親のみに行っています。ご両親のどちらも来院出来ない場合は、その旨依頼時にお伝えください。病棟は3階で、入り口のインターフォンでお話くだされば、職員がご案内申し上げます。

新生児センターの面会等について

・面会の詳細

緊急時を除いて、面会時間は13:00～20:00です。

ご両親と祖父母の方にお入りいただけます。

日本語が不自由な場合、通訳の方にお入りいただけます。

・母乳について

面会時に母乳をご持参いただくと助かります。搾乳して母乳パックで冷凍した状態でご持参いただければ、病棟内の専用冷凍庫にて保管し、必要な時に使うことができます。



病院案内

■交通のご案内



自家用車をご利用の場合

-  北関東自動車道太田桐生I.C.より12km、所要時間25分
-  北関東自動車道太田藪塚I.C.より10km、所要時間20分

電車をご利用の場合

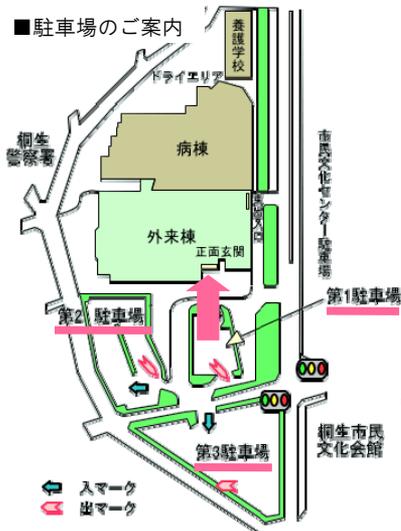
-  JR桐生駅(南口)から徒歩10分
-  東武桐生線新桐生駅からはおりひめバス、タクシーをご利用ください



■院内のご案内

		西病棟	エレベーター	東病棟
		循環器内科 (16) 耳鼻いんこう科 (20) 皮膚科 (6) 眼科 (6) 801~820号室	8F	会議室・理容室・美容室 売店・レストラン
		内科 (52)	7F	内科 (52)
		脳神経外科 (5) 泌尿器科 (23) 内科 (5) 整形外科 (9) 603~612号室	6F	呼吸器外科 (9) 脳神経外科 (37) 601・602・613~671号室
		外科 (52) 血管外科 (5) 501~521・551~556号室	5F	休床
		産婦人科 (35) 401~416・472号室	4F	整形外科 (41) 泌尿器科 (13)
		人間ドック (8) 308~311号室 会議室 (4)	3F	N I C U (20) G C U (15) 小児科 (20) 内科 (6) 産科・口腔外科 (5) 神経内科 (4)
外来棟	エレベーター	I C U・C C U (6) 腎センター・C A P D室	2F	手術室 中央材料室
医局	・麻酔科 (ペインクリニック) リハビリテーション科	2F		
外来		1F		
		中央検査部 (病理・細菌・検体・血液・尿検査・心電図) 内視鏡検査室	1F	放射線科 (レントゲン撮影・MRI・CT・アンギオ等)
		B 1F		
		待合室・更衣室・コインランドリー 食事指導室・食費科 (事務室・厨房)	B1F	放射線治療部・防災センター 医療器械中央管理室・物品管理室
		電気機械室等	B2F	

■駐車場のご案内



桐生地域医療組合
桐生厚生総合病院

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6-3

TEL: 0277-44-7171

URL: <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp>



